
東京都微生物検査情報

MONTHLY MICROBIOLOGICAL TESTS REPORT, TOKYO

第 39 卷 第 3 号
2018 年 3 月号
月 報



東京都健康安全研究センター

<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/>

ISSN 1883-2636

東京都における梅毒無料匿名検査の陽性率の推移

Treponema pallidum を起因菌とする性感染症である梅毒は、感染症法において全数把握の五類感染症に指定されており、診断した医療機関は7日以内に保健所に届出を行うことが義務付けられている。近年、梅毒の届出数は急増傾向にあり（図1）、2017年末において東京都で1,788件、全国で5,770件の届出があった。2012年と比較すると5年で東京都は6.0倍、全国で6.5倍の増加がみられており、梅毒の対策は急務と考えられている。東京都感染症情報センターによる都内届出例の推定感染経路別の推移（図2,3）を見ると、男性の同性間接触に由来する患者数に比べ、異性間接触に由来する患者数が著しく増加している。このことは、従来のMSM（Men who have Sex with Men）のコミュニティー内を中心とした伝播・蔓延に加え、異性間接触による女性の感染の増加が影響しているためであると考えられる。村上ら¹⁾の報告では、2016年は女性では20-24歳の人口対届出率が最も高く、若年層の女性の間での梅毒の急増に対する公衆衛生上の対策が急がれているとしている。

東京都では特別区保健所（以下、保健所）や東京都南新宿検査・相談室（以下、南新宿）において梅毒の無料匿名検査を実施している。特別区保健所では概ね月1～2回で通年、南新宿検査・相談室では6月1日～30日の東京都HIV検査・相談月間と11月15日～12月14日の東京都エイズ予防月間（以下、対策月間）の期間は毎日、それ以外の期間については2015年4月からは週2日、2016年4月からは週3日の頻度で検査を受け付けている。東京都健康安全研究センター（以下、健安研）ではこれらの施設より依頼された検体について、TPLA法（*Treponema pallidum* Latex Agglutination）とRPR法（Rapid Plasma Reagin test）によるスクリーニング、TPHA（*Treponema pallidum* Hamagglutination）による確認検査を行っている。今回、健安研で行った2015～2017年の梅毒検査（2015年：6,375件、2016年：8,085件、2017年：9,706件）について、施設・検査時期・被験者性別に関する分析を行ったのでその結果について報告する。

施設別の陽性率（図4）をみると、主に過去の感染を示唆する【TPLA(+)RPR(-)TPHA(+)]の結果は南新宿において2015年と比較して2016、2017年はやや陽性率が高くなっており、すなわち梅毒罹患歴を有する層の割合がやや増加していたものの、主に現在の感染を示唆する【TPLA(+)RPR(+)]の結果は保健所、南新宿ともに医療機関からの届出数に類似した急激な上昇はみられていない。

検査を行った時期について陽性率を比較してみると（図5）、過去・現在の感染を示唆する結果の両方も通常月間と対策月間の間に顕著な差はみられなかった。男女別の陽性率（図6）をみると、女性の陽性者は少数であるためバラつきは大きいものの、現在の感染を示唆する結果についての女性の陽性数に顕著な上昇はみられていない。

梅毒の無料匿名検査における女性の陽性率は男性と比較して顕著に低く、梅毒届出数における男女比とは乖離がみられている。男性では、過去の感染を示唆する結果の割合が、現在の感染を示唆するものの約2倍の割合でみられていた。また、女性の梅毒陽性例【TPLA(+)RPR(+)]の年代別内訳を表に示した。年による変動が大きく、2015、2016年は10-20歳代が7例中3例、7例中6例を占めていたが、2017年は12例中3例であり、その他の年代が多くみられた。

なお、2018年4月から南新宿では梅毒検査について通年、祝日を除き毎日検査が受けられるように検査体制を増強した。検査可能日の拡大により梅毒検査がより受けやすくなると考えられるが、このことを機会として都内における梅毒の実態把握や女性も含めた梅毒感染拡大につながる層の梅毒検査の受診向上に結び付くことが期待される。

参考文献

- 1) 村上邦仁子 他：IASR, 38, 62-64, 2017.

(病原細菌研究科 三宅 啓文)

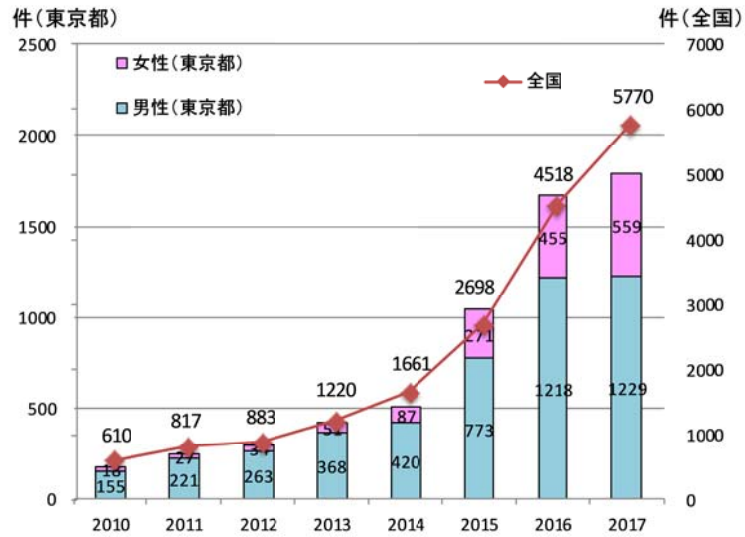


図1. 梅毒届出数の推移(全国・東京都)

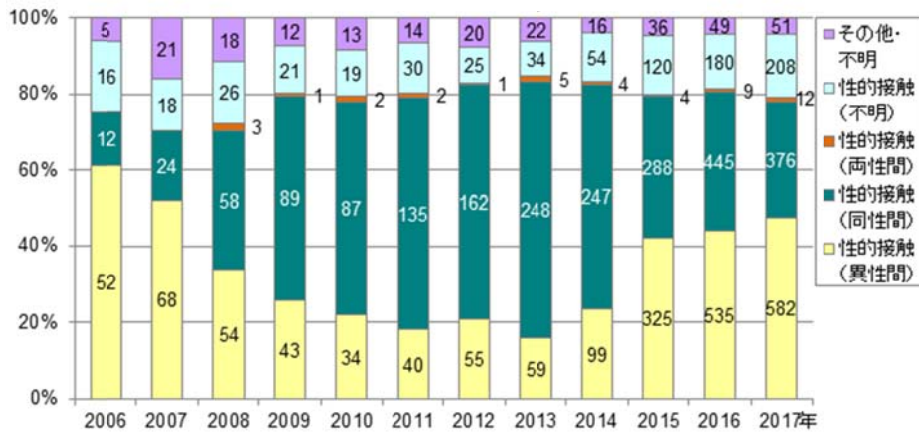


図2. 推定感染原因別患者報告数推移(男性)
(東京都感染症情報センターHPより)

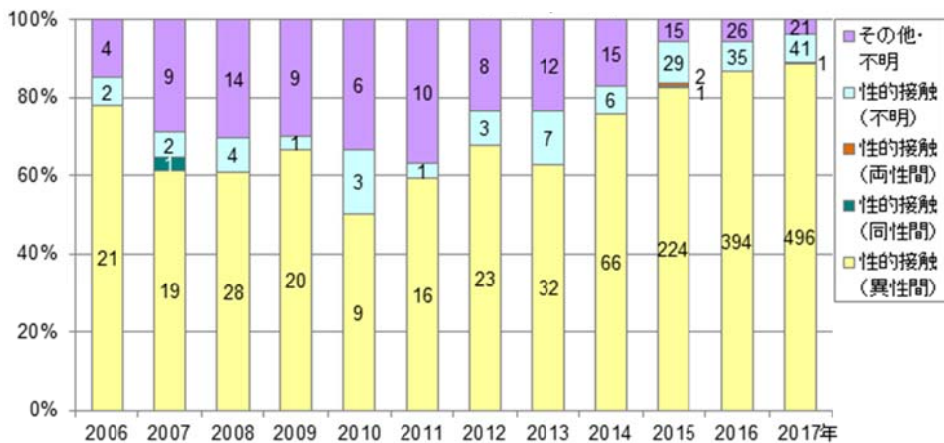


図3. 推定感染原因別患者報告数推移(女性)
(東京都感染症情報センターHPより)

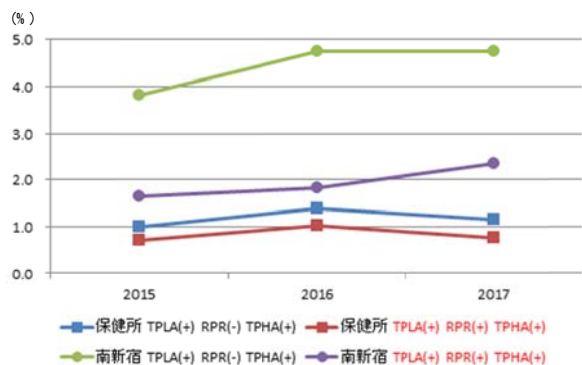


図 4. 施設別梅毒陽性率の推移
(2015-2017 年)

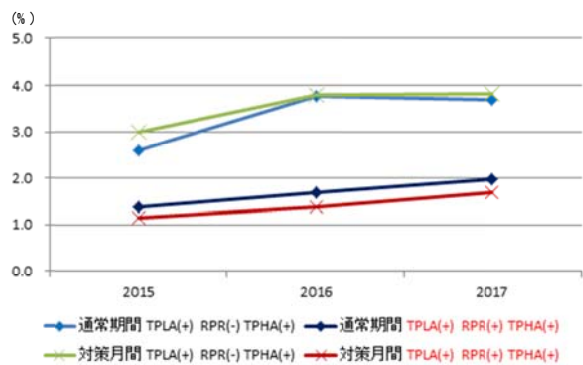
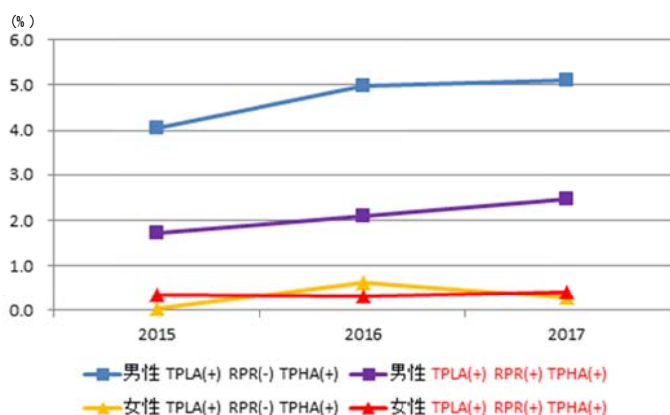


図 5. 検査期間別梅毒陽性率の推移
(2015-2017 年)



		2015	2016	2017
男性	TPLA(+) RPR(-) TPHA(+)	175/4331	291/5827	354/6940
	TPLA(+) RPR(+) TPHA(+)	75/4331	122/5827	172/6940
女性	TPLA(+) RPR(-) TPHA(+)	1/2044	14/2258	8/2766
	TPLA(+) RPR(+) TPHA(+)	7/2044	7/2258	12/2766

陽性数/検査数

図 6. 男女別梅毒陽性率の推移(2015-2017 年)

表 女性梅毒陽性例【TPLA(+)RPR(+)TPHA(+)]年代別内訳

	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	合計
2015	1	2	2	1				1	7
2016		6	1						7
2017		3	3	3	2			1	12
合計	1	11	6	4	2	0	0	2	26

表1 病原体搬入・検出状況(4種等)*

2018年3月分

機関名		コレラ菌	赤痢菌	チフス菌	パラチフスA菌	腸管出血性大腸菌	結核菌
区	千代田区						
	中央区						
	港区						2
	新宿区		1		1		
	文京区						
	台東区						
	墨田区			1			
	江東区						
	品川区						1
	目黒区						
	大田区					1	
	世田谷区						2
	渋谷区						
	中野区						
	杉並区						
	豊島区						
	北区					2	
	荒川区						
	板橋区						2
	練馬区						
足立区							
葛飾区							
江戸川区							
市	町田市						
	八王子市					1	
小 計			1	1	1	4	7
都	西多摩						
	多摩立川						
	南多摩						
	多摩府中			1			
	多摩小平						1
	島しょ						
小 計				1			1
合 計			1	2	1	4	8
健康安全研究センター 検出分			2		3		

*2016年4月より、各保健所から搬入された検体を集計することとした。

表2 検体搬入状況(全数把握対象疾患-五類)*

2018年3月分

	検体数	2018年累計
侵襲性インフルエンザ菌感染症(菌)	1	7
侵襲性髄膜炎菌感染症(菌)		2
侵襲性肺炎球菌感染症(菌)	7	39
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(菌)	4	12
播種性クリプトコックス症(菌)		7
合計	12	67

※2016年4月(第37巻・第4号)から追加

表3 病原微生物検出状況(食中毒関連)

2018年3月分

	病原体名	検体数	2018年累計
細菌	大腸菌		
	毒素原性		
	組織侵入性		
	病原血清型		
	腸管出血性		
	サルモネラ		
	○4	1	4
	○7	1	1
	○8		2
	その他		1
	エルシニア・エンテロコリテイカ		
	腸炎ビブリオ		
	カンピロバクター	8	29
	黄色ブドウ球菌		
A型ウエルシュ菌	3	14	
ボツリヌス菌			
セレウス菌			
ウイルス	ノロウイルス(G I)	33	40
	ノロウイルス(G II)	114	378
	ノロウイルス(G I,G II)	3	5
	ロタウイルス		
寄生虫	アニサキス	7	18
	クドア	1	1
合計		171	493

表4 HIV 検査数及び陽性数

2018年3月分

	男性		女性		性別不明		合計	
	検査数	陽性数	検査数	陽性数	検査数	陽性数	検査数	陽性数
東京都南新宿検査・相談室	702	5	250	0	0	0	952	5
保健所等	167	6	107	0	0	0	274	6
合計	869	11	357	0	0	0	1,226	11
2018年累計	2,675	30	1,036	0	0	0	3,711	30

表5 性感染症検査数及び陽性数

2018年3月分

	梅毒検査		クラミジア遺伝子検査		淋菌遺伝子検査	
	検査数	陽性	検査数	陽性	検査数	陽性
東京都南新宿検査・相談室	462	38	0	0	0	0
保健所等	213	5	197	18	116	1
合計	675	43	197	18	116	1
2018年累計	2,068	113	632	45	402	2

表6 定点把握疾患別病原体分離状況（ウイルス）

過去3ヶ月

定点種別	対象疾患名	検出病原体	1月	2月	3月	合計
小児科	咽頭結膜熱 手足口病 流行性耳下腺炎 不明発疹症 突発性発疹	アデノウイルス	2	2	1	5
		エンテロウイルス		2		2
		ムンプスウイルス	1			1
		エンテロウイルス		1		1
		アデノウイルス	1			1
インフルエンザ	インフルエンザ及び インフルエンザ様 疾患 (ILI)	インフルエンザウイルスAH1pdm09	23	9	3	35
		インフルエンザウイルスAH3	48	27	29	104
		インフルエンザウイルスB型Victoria系統	1	2		3
		インフルエンザウイルスB型Yamagata系統	75	66	21	162
基幹	インフルエンザ入院	インフルエンザウイルスAH1pdm09	1			1
		インフルエンザウイルスAH3	4	2		6
		インフルエンザウイルスB型Victoria系統				
		インフルエンザウイルスB型Yamagata系統	4	2		6

◆東京都微生物検査情報◆

2018年 4月 26日

編集・発行

東京都健康安全研究センター

〒169-0073

東京都新宿区百人町 3-24-1

TEL:03-3363-3213

FAX:03-5332-7365

S0000786@section.metro.tokyo.jp

<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/>